

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立斐太高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和4年5月23日(月) 13:30~15:30
- 3 開催場所 斐太高等学校 有斐会館 会議室
- 4 参加者

会長	水口 浩美	高山市国府支所次長
副会長	高村 正博	前育友会長
委員	坂井 歩	高山自動車短期大学学長
	長澤 志保	前育友会役員
	番場 さとみ	育友会役員
	廣田 早苗	有斐会副会長
	丸山 純平	ひだジモト大学事務局
	溝際 清太郎	株式会社駿河屋魚一代表取締役社長
	南 賢太郎	育友会長
学校側	大野 貴司	校長
	野中 明子	教頭
	石原 秀三	事務部長
	平野 昌之	教務部長(教務主任)
	駒澤 誠二	進路指導部長(進路指導主事)
	富田 喜友	生徒指導部長(生徒指導主事)
	清水 潤	特別活動部長
	中川 鉄紀	探究活動推進部長

### 5 会議の概要(協議事項)

#### (1) 開会式

- ア 校長挨拶
- イ 会長、副会長選出

#### (2) 授業参観後の感想

意見1: 教員が一方的に教えるのではなく、生徒が主体性、自発性をもって学ぶ姿が見られた。

意見2: タブレット端末を活用した授業では、生徒が画面ばかりを見ているようにも感じられた。教員と生徒が活発にやり取りしているような授業があってもよい。

意見3: グループでかかわりあう生徒と1人で学習している生徒がいた。グループの中で1人積極的に発言している生徒もいた。ファシリテーターを置くなど授業形態について指示はあるのか。

⇒当初はグループワークで行う予定だったが、新型コロナウイルスの感染が高止まりしている状況もあり、本日は個別のテーマ設定ということにした。「総合的な

探究の時間」はグループワークで行うことも多いが、グループでは他の班員に頼ってしまう生徒もいるため、まずは自分で考えてみる活動も要所に取り入れている。

意見4：同じ教科でもタブレット端末を活用している教員とそうでない教員がいるが理由はあるか。

⇒積極的に活用する教員と、そうでない教員がいる。グラフの変化を見せたり動きを見せたりするなど視覚的な効果が見込まれる内容の時は、教員が授業でICT機器を活用することが多い。生徒の利用ということでは、授業では文字をタイピングで「入力」するばかりではなく「書く」ことが効果的な学習内容もある。タッチペンを導入することも利活用を推進する一つ的手段と考える。授業におけるタブレット端末の効果的な使い方は、今後さらに各教科で研鑽を積んでいきたい。

意見5：ICT機器を駆使している様子が見て取れた。欠席している生徒もオンライン配信により家庭で他の生徒と同じ授業を受けることができる。学校にICT機器を導入した利点と考える。

### (3) 令和4年度の本校の現状と今年度の運営方針について

#### ア 学校経営計画について

教頭及び各分掌長から教育指導の重点及び学校経営計画に基づいて説明

意見1：生徒の相談体制はどのようになっているのか。例えば全教員が授業のない時間帯を生徒に示し自由に相談ができるような体制をとっているか。

⇒生徒の相談場所として教育相談室があり、教育相談の担当が常駐している。希望があれば担当以外のかかわりの深い教員が相談を受けることもある。意見を参考に、さらに相談しやすい体制を整えていきたい。

意見2：定期テストは紙面で実施しているのか。今後、タブレット端末を使用する予定はあるか。

⇒テストは現在紙面で行っている。タブレット端末を活用したテストの実施については、今後導入による効果や生じる問題等について研究していきたい。

意見3：人権教育はどのようになっているか。

⇒生徒が自己の目標に向かって取り組む中で、自身に自信や誇りを持つことが、他を受け入れる気持ちにつながると考える。学習活動や特別活動で、そういった気持ちを育むことができるように指導・支援していきたい。

⇒SDGsを意識した教育活動を来年度から目に見えるかたちで展開できるように検討している。

意見4：FRH（地域共創フラッグシップハイスクール）は3年間の事業で今年度は3年目となる。来年度以降の見通しはあるか。

⇒これまでの取組の蓄積があるため、探究活動の進め方に問題はないと考えているが、予算面で課題がある。今後の動向を確認し、来年度の取組について計画をしていきたい。

#### イ 教育課程について

教育課程表をもとに進学重視型単位制カリキュラムの特長を説明

#### ウ 学校の組織編成について

学校運営組織図で確認

#### (4) 本校の教育に対する意見及び提言

- 意見1：生徒と地元の大人との交流を増やしていきたい。都市部から地元に戻ってきてキャリアを積む大人と生徒が交流する機会を設けたい。
- 意見2：生徒が生きていくうえで立ち向かわなければならない課題を、大人とかわることで解決できるような形態の学習ができるとよい。
- 意見3：祭りに参加することは、生徒が地元を知るうえでも、さらに将来、地元へ思いを寄せるきっかけとしても大切である。例えば祭りに参加するときの配慮はあるのか。  
⇒公認欠席扱いとしている。
- 意見4：自転車の乗り方について、朝の通学時、左折を待っている車がいるときでも自転車の列が途切れないことがあった。譲り合う気持ちも育めるとよい。
- 意見5：勉強はもちろん大切だが、社会人となれば必要となるのはそれだけではない。将来を見据えた指導も必要である。一方、進学受験に向けた取組は、自主性を重んじるだけではなく、学校からの強い働きかけが必要である。
- 意見6：不登校から退学に至る生徒がいる。入学したからには皆と一緒に卒業してほしい。担任には話づらいという生徒もいると考えるが、登校することに悩む生徒への対応はどのようにしているのか。  
⇒一人ひとり事情が違うため、その生徒にあった対応を複数の教員で行うようにしている。新型コロナウイルス感染対策による休校や学校での教育活動の変更が、現在の高校生に少なからず影響を及ぼしているのは他校の状況からも窺える。生徒の発信や生徒との接点を大切に、複数の教員で対応していきたい。
- 意見7：新型コロナウイルスの感染拡大状況が緩やかになってきたとしても、すべてを感染拡大前に戻すのではなく、この災禍を契機として学校の活動も改善できるとよい。これまで本校が継続してきたことを変える好機とも考えられる。
- 意見8：本校を大切に考えている人は多い。本校のことを自由に話せる場があるとよい。
- 意見9：今年度の1年生は入学志願者が定員を割りこんだ。中学生は多様化しており、高校に期待することも様々である。学習面だけではなく本校の魅力を広報できるとよい。

#### 6 会議のまとめ

- ・本協議会にて、今年度の学校運営方針について全委員より承認が得られた。
- ・本校が目指す「育てたい生徒像」を育成するための取組の一つであるFRHにつながる「総合的な探究の時間」やICT機器を活用した普通教科の授業参観で、現在の本校の教育活動の実態について理解が得られたことで、より具体的な意見や提言が得られた。本校の教育に対する意見や提言とともに、各分掌で検討し、今後の学校経営に反映させたい。